

住

全愛知建設労働組合

建設業で働く人の 安全と健康を守る

働く人のキャリアアップで処遇改善

全建愛知の略称で呼ばれる全愛知建設労働組合が設立されたのは昭和47年（1972）です。県内に30の支部を持ち、組合員は約14,000人、「建設労働者の経済的、社会的地位の向上」を基本目標に掲げ、なかでも力を入れて取り組んできたのが建設現場で働く労働者、職人、親方、見習工の安全と健康です。

石綿（アスベスト）は安価で耐久性や耐熱性などに優れていたため、さまざまな用途に用いられていました。石綿含有建材を使用したことによる健康被害については大学教授や医療関係者と連携し、組合員とその家族への健康診断、職歴調査などを実施し、労災認定等を推し進めてきました。安全を守る観点からは、フルハーネス型墜落制止用器具の講習会、石綿作業主任者技能講習、木造建築物の組立て等作業主任者技能講習、職長・安全衛生責任者教育など建設現場での安全を守るため、10以上の講習の実



組合員の健康を守る巡回検診

施に取り組んでいます。

また、国土交通省は、建設関係技能者一人ひとりの経験、知識、技能、マネジメント能力のレベルを評価する建設キャリアアップシステム（CCUS）を推進しています。全建愛知は、国が進めるこの施策に取り組み、技能者の賃金アップなど処遇改善を図っています。



フルハーネス型墜落制止用器具の講習会風景

地域との コミュニケーションも重視

組合員の法律相談、労務相談だけでなく、名古屋栄地下街の「名古屋市住まいの相談窓口」へ相談員を派遣するなど、市民の住まいに関する相談事にも応えています。また、組合員同士の交流を図るレクリエーションや名古屋市各区の区民まつりへの参加、県や市と「被災住宅応急修理協定」や「災害時応急仮設住宅建設協定」を結び、被災者への迅速な住宅提供に取り組めるようにしています。